

Japanese
Prodigal
50-0827A

ある放蕩者の事

クレーブランド オハイオ州 アメリカ合衆国
1950年08月27日午前



www.messagehub.info

ウィリアム・マリオン・ブラハム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7

はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

ある放蕩者の事

1 ポール兄弟、ありがとう。皆さん、こんばんは。

(会衆の拍手)

本当にありがとうございます。三週間近くご一緒したあとで、こうしてまた歓迎していただけることを、とても嬉しく思います。これは、私たちの間に相互の交わりがあることを示しています。

それは……死でさえも、私たちを互いから引き離すことはできません。私たちはどこかで生き続けます。愛は進み続けます。すべてのものが過ぎ去った後でも、愛はなお立ち続けます。

「預言はすたれ、異言はやみ、しかし愛はいつまでも絶えることがない。」

愛は生き続けます。生き続けるのです。

今日の午後、こうして少しの間でも皆さんにお話しする機会を与えられたことを、改めて嬉しく思います。少し暑いですね。

そして今夜は癒しの礼拝、リバイバルの締めくくりです。今夜はできる限り、会衆の皆さん一人ひとりに奉仕したいと思っています。できるだけ多くの時間を、病の方々のための祈りに用いるつもりです。

私はかなり遅くに家へ戻りました。金曜日の夜でした。そして翌朝、土曜日の朝には礼拝がありました。土曜の午後遅くには、すぐに対処しなければならぬ緊急の用件がいくつかありました。そして昨夜、教会へ向かい、ほんの一時間ほど前に戻ったところです。

今日は午後と今夜に礼拝があります。そして明日の正午には、インディアナ州ニューアルバニーで礼拝があります。ですから、ご覧の通り、絶えず移動し続けているのです。

けれども、どこであっても、イエスについてほんの少しでも語る事ができるなら、それが何より大切なのです。

それこそが、すべてなのです。

2 私はここにいて一牧師たちと、彼らにインスピレーションを与えたり助けたりした歌う人たちにとても感謝しています。それがここにいて目的であり、他の

人を助けようとしているのです。私たち…私自身、このメッセージを全世界に伝えることは決してできませんでした。これを行うには何千人もの私たちが一緒に必要になるでしょう。そして、教会や教義などを忘れて団結できるとき、この一つのこと、つまり十字架につけられたキリストとキリストを知り、それを私たちの中で知ることができるようになります。そして神は…すぐに素晴らしい仕事をしようと思えます。私たちは、これまで経験したことのないほど御霊の動きを見ることになると信じています。

そして、私はこう言わざるを得ないと感じています。これは、私が以前から、あるいはここ数週間感じてきたことですが、神が私に与えてくださった、他の人々に奉仕するためのわずかな部分は、神が今再びそれを高め、神が私に与えてくださった他の二つのしるしよりも素晴らしいものへと導くだらうと信じているのです。そして、これまで以上に優雅なものになると信じています。私のために祈ってください。そして、他の人々がインスピレーションを得て、偉大なキリスト教軍のように神に近づくことができれば、行進を続けます。

今週私に贈られた一小さなプレゼントや物からもう一度言いたいのですが、家に帰るまでいくつかを開けることができませんでした。すべて感謝されました。小さな女の子と私でさえ、家に帰ったとき、なぜ誰かが私にクッキーの箱をくれたので、私たちは座ってクッキーを食べました、私の小さな女の子と私は;私たちはそれらを持ってとても幸せでした。

3 さて、あまり時間をかけたくないということです。今日この建物にはクリスチャンが何人いますか?建物のいたるところにあなたの手、つまりクリスチャンがいるのを見てみましょう。ああ、私の。罪人はいるのか?誰かが罪人かどうか見てみましょう、手を挙げてください。罪人じゃないってこと?[テープ上の空白部分—編]…?…一人の罪人!私の!…?…神のご加護がありますように。それでいい。私たちは皆クリスチャンです。きっとそれは嬉しいです。とても素敵ですね。さて、あなたが信じて以来、聖霊を受けた人は何人いますか?手を見てみましょう…?…ああ、私の。ここを見てください。歓喜にはいい時期でしょう?もう…?…さて、今日の午後、『放蕩息子の帰還』についてお話しするつもりでした。通常、私は罪人をキリストのもとに來させるためにこのテーマについて話しますが、ここには罪人がいないので、キリストのもとに來る人もいないでしょう?それで、テキストを変更して何かを取得するかもしれません…?…

そして家に帰ったら、近所の人や病気の人たちを呼んで連れ出してください。そうすれば、今夜、主が私たちのために何かしてくださるかもしれません。それはちょうど始まるでしょう(ああ、なんてことだ)。今夜は私たちに素晴らしい

子イエスの御名によってそれを与えてください。

ああ、天の父よ、祝福してください、私たちはイエス・キリストの御名と栄光のために祈ります。

あなたが祈っている間、今、どこにいても誰もが聖なる手を上げてこう言います、“主イエスは私に慈悲深くあれ..”…?…[礼拝の継続に関する兄弟のコメント—編]

ああ、その目から涙をぬぐってください。今、ある者は栄光のうちにおられるかもしれません。そして彼らはそこから……この祭壇への招きを見ているのです。罪人たち、神を求める魂が祭壇の周りに集まっています。

おお聖霊よ、今この時、偉大な力をもって動いてください。この建物の上に臨んでください。あなたがここに一人ひとりに聖霊のバプテスマを授けようとして待っておられることを、私は知っています……。どうか誰かの上に激しく臨み、それが全会衆へと広がっていきますように。

54 (テープ上空白一編集)……このアリーナにおいて、神の御国がその民に現されますように。

おおキリストよ、私もこの中に加えられたいのです。神よ、どうか私を覚えていてください。私の日々は限られています。私の分はすでに定められています。いつの日か死がこの体から命を絞取る時が来ます。そして私はあなたにお会いしなければなりません、イエスよ。

その時、主よ、あなたはそこで私を迎えてくださいますか。

部屋に霧が立ちこめ始め、首に苦しみを覚え、脈が袖口へとぼつてくるその時、私はあなたがそこに立っていてくださることを期待します。

「たとい死の陰の谷を歩むとも、私は災いを恐れませんが、あなたが共におられるからです。あなたのむちとあなたの杖、それが私を慰めます。」

おお神よ、今、この大いなる暗い時——かつて平和を襲ったどの戦争よりも大きな世界的戦争の直前にあって、聖霊の力がノアの日のように地に動いているこの時に、今日、男も女も説き勧められてキリスト・イエスのもとに来ようとしています。門から入り、狭い門をくぐり、御国に生まれるために。

今、ここにひざまずいている悔い改めの魂を、ああキリストよ、どうかその祈りを聞いてください。私は心から信じます。あなたが彼ら一人ひとりを御国に受け入れてくださることを。

あなたの御霊が彼らの人生の上にとどまり、この午後まさに今、彼らの心の願いをかなえてくださいますように。

55 今バルコニーに立って祈っている人の多くがいますように。聖霊がその通路を上下に注いでくださいますように。主よ、あなたの民を呼び出し、どこにでも彼らを祝福し、私たちを素晴らしい日に備えさせてください。父よ、あなたの御

溢れかえりを与えてくれるでしょう。そして、彼らは、今夜の礼拝のために、このどこかにいるすべての病人や苦しんでいる人、簡易ベッドや担架などのために、このいくつかの場所をロープで縛るつもりだと言ったと思います。それはとてもいいでしょう。

そして私は神がそうしてくださるよう祈ります…皆で力を合わせて、今夜建物の中にいるすべての人を神が癒してくださるよう祈りましょう。ここで見たくないですか？ここで神に約束します…[テープの空白部分一編集者注] そこにいる全員を癒してください。そして、もし神がそうしたいのであれば、あなた…それは神と私の間のしるしとなり、あなたが場所を確保できる限り早く、私はこの会合を続けるために再びここに戻ります。

[誰かが言います、“彼らはあなたにその説教をしてもらいたいのです。”一編] よし。[誰かが言います、“私たちは皆、恵みによって救われた罪人です。”] アーメン。それが私たちです“恵みによって救われた罪人”そうか？私たちは皆、恵みによって救われた罪人です。放蕩者だった頃のことを覚えています。私はこれに近すぎるのでしょうか？

4 よし。誰もが思い出して祈ってください。もし私たちがたまたましばらく留守にすることになったとしても、祈りの中で私を忘れないでください。今日の午後、私が礼拝に来る前の時間、油注ぎの下から出て、病人のために祈っています。そして、立ち上がって人々に挨拶することは大きな自由であり、私たちは一私たちは一それを喜んで行きます。それは一私を成長させ、そして夜間にこれらのことに対する油注ぎが来るとき…想像してみてください。時には、何千人もの人々が集まった私たちの集会で、批評家や記者がいるのを感じることができます。時には批判する牧師や、癒しを信じない教会もいます。そして彼らは一ただ一つの間違いを見つけるのを待っているだけです。それができれば、彼らはそれを固定します。それはaです—それはaです…

さて、聖霊がすぐに入ってきて、何が何であるかを正確に知ることができるまで、私は常に最高の状態—でなければなりません。それが私がいかに人と一緒に訪れない理由であり、行きたくないからではありません。神は私がそうしたいと思っていることを知っていますが、私—私にはそれができません。なぜなら、私が誰かと付き合うとき、彼らは何か別のことを話しているからです。そうすれば私はそこから遠ざかり、もし主がそうしてくれたら、私はただそうしたいのです。“この人は特定の—特定のものを持っています、またはこのこれを持っています。あなたの前に立っているこの人は誰ですか？”1つの間違いが何をするかを覚えておいてください。そして、私は何も知らないで、自分自身に頼る

ことはできません。私は彼に頼らなければなりません。

そして、そこで私は、主がそうしてくださるとき、超自然的な存在である神が私たちの真ん中にいて、私たちの間で神の御業を讃える用意ができていると信じるよう会衆全体を鼓舞してくださると信じています。そして、神がそのようにご自身を知らせてくださることをとても嬉しく思います。頭を下げながら、ほんの一瞬だけ神と話すことはできますか？

5 私たちの天の父よ、私たちは今日の午後ここに来て、あなたの子供たちの中に代表されることをとても感謝しています。あなたを信じる者、あなたのために苦しむ者、御言葉を宣べ伝える者、昼も夜も奉仕する者、断食して祈り、一日中天を見つめる者。

私たちは、今日の午後までに設定しているこのような天のグループと関わることができて感謝しています。そこでは、何百人もの人々がここに集まり、皆あなたの御霊に満たされ、水の動きを待っています。中に入る。そして、もしかしたら、主よ、ここにいてあなたを知らない人たちが、それを公に告白するために手を挙げることに少し後進的だったかもしれません。今日、あなたがその心に語りかけ、彼らを悔い改めの祭壇に連れて行き、彼らがあなたを心から大切にしてくれるように祈ります。そして聖霊を持たない人々が今日来られますように。[テープ上の空白部分一編]

言ってください、“ああ、神よ、私を探して試して、私の中に悪があるかどうかを確認してください。それから、私が心の中で聖霊であるあなたを受け入れることができるように、あなたの血によってそれを洗ってください。” 私たちの欠点を許してください、主よ、お願いします。あなたの子供たちは間違いを犯しました。私たちは何度も道から間違いを犯し、あなたが私たちを許してくださいよう祈ります。御言葉を祝福してください。父よ、私は今日の午後に言う言葉を一言も知らないことを知りません。おそらく、放蕩息子の帰還について講演することを発表したところです。ただあなたを待つつもりです、あなたが言うことを、私たちは言います。出て行くすべての言葉を祝福してください。彼らが肥沃な地に落ち、百倍を生み出しますように。なぜなら、私たちは主であるキリストの御名においてそれを求めるからです。アーメン。

6 なぜ放蕩息子の帰還について話すためにその主題を言ったのかわかりません。私は過去8年間、この聖書を読んでいませんし、この聖書の一部も読んでいません。そして、それについて話すと、私がそれについて話してから8、10年が経ったと思います。そして、そのとき私はパリサイ人の道からそれに近づいたと思います。家に取り残された息子は、兄に対して悪い気持ちを抱いており、

愛する救い主をあなたの心から締め出さないでください。

主を退けないでください。

さて、もし病んでいて、神の恵みのうちに入りたくないと願うなら……どうか皆さん、今は席に着いてください。着席してください。

あらゆる所にいるクリスチャンの皆さん、何をしても祈っててください。覚えておいてください。今、一つの魂が御国に入ろうとしているかもしれません。

ここに聖霊を求めている方はいますか。必要としている方は。あなたにとってそれが何を意味するか、考えてみてください。あなたが聖霊を受けたあの夜、それはあなたにとって何を意味しましたか。何であったでしょうか。

今こそ、彼らが聖霊を受ける時です。多くの人が罪の生活から救われつつあります。彼らは真実であり、神に飢え渴いています。

私はこの祭壇への招きのために、すでに三十分以上あなたがたを引き留めてきました。

53 さあ、祈りのために、どこにいる方も皆、頭を垂れましょう。

牧師の兄弟たち、この会衆の中に入って行ってください……人々の間に出て行き、共にいてあげてください……。

どこにいても、皆さん祈ってください。ここで神を求めているすべての方、今、手を挙げて、「神よ、私は信じます」と言いなさい。

天の父よ、私たちは御国から離れた放蕩者です。さまよい出てしまいました。愛する父よ、私たちの多くは、もはやあなたの子と呼ばれるに値しない者です。ただ雇い人にしていただくだけでも十分です。

しかし、あなたは私たちをしもべにしようとはなさらない。あなたは私たちを息子、娘にしたいと願っておられる。家の特権を持つ者として——自分の家にいると分かっているからこそ、腹が減れば冷蔵庫に行ってお腹を減らす、疲れば休むことができる、そのような子どもにしたいと願っておられるのです。

おお神よ、今日、多くの者が思い出しています。さまよいながらも、家のことを。自分を愛してくれた父や母のことを。昔ながらの母が、彼らのために祈り、死ぬまで祝福し続けてくれたことを。昔ながらの父が……。

はないかもしれないのです。

あなたのその大切な魂は、どこに行くのでしょうか。

放蕩者達よ、どうかそれを賭け事のように扱わないでください。今、来なさい。もしあなたが、ただ何となく教会に通っているだけで、自分は教会員だと知ってはいるけれど、まだ本当の体験を持っていないのなら、どうか来ませんか。

私はとても不思議な導きを感じて、これを——これをするように促されています……手を挙げてください。

ご覧なさい、ここにいるクリスチャンの皆さん、この光景を見てください。道に落ちた雀一羽を養われる神が、このことから目を背けられると思いますか。雀一羽の死をご存じであるなら、ましてや何百人もの真実な人々が祈っているこの場を、神が顧みないはずがあるのでしょうか。

これは驚くべき時となるでしょう。友よ、両側からまだ人々が来ています。あなたが一步を踏み出すなら、神は大いに喜ばれます。私たちも心から喜んで、あなたのために祈りましょう。

52 あなたもこの中に加わりたいと思いませんか。

もし外で突然、大きな響きがあったらどうしますか。あなたは死ななければならぬのです。そして人々はこう言うでしょう。「何が起こったのだ？」神のラッパが鳴ったのです。ああ、なんとということでしょう。最後の呼びかけがなされたのです。その時、あなたはどこにいるのでしょうか。

……その時、あなたの魂はどこにあるのでしょうか。

今、機会があるうちに来なさい。

主を拒まないでください、主を退けないでください。

主はあなたの心に来てくださいます……

たとえあなたが道を踏み外していたとしても。

ああ、その永遠の日に

「よくやった」と言っていたきたいと、

どんなに願うことでしょう。

それが物語の展開だと私は信じています。そして、父親が迷子になった—迷子の息子と、それに対する彼のアプローチ姿勢を受け取ったので、彼は非常に挑発されました。そして私は教会に、罪人が祭壇に来るとき、教会全体が彼らの周りに集まるべきだ、とどのように感じるべきではないかについて話しました。それを信じないのか？

少し前、私が生まれたケンタッキー州バークスビル近郊で、戦没将兵追悼記念日のことでした。約5年前、私は日曜日の午後にそこで講演していました。そして…私は少し前に、なんと違うことかと考えていました。ここに車が駐車されていて、素敵な講堂があり、その下には下見板の屋根板と割れた丸太でできた小さな古い教会がありました。そしてその日彼らが私を連れて行ったとき、ずっと馬がいました。彼らは朝のことを話し、賛美歌を歌っていました。そして私はプラットフォームの上に立っていましたが、片側には“アーメンコーナー”があり、反対側には女性たちがいました。そして彼らは歌集をまったく持っていませんでした。彼らは古いオルガンを持っていて、それを棒で汲み上げました。見たことある？誰かがオルガンを見たことがあるかどうか見てみましょう？ああ、そうだ、森を切り取った大きな棒でポンプすると、このオルガンがポンプされるんだ。そして、鍵の一部が切れていたため、使用しないこともありました。彼らは古い音叉を持っていて、それを使って音叉を叩くと、大臣はこう言いました。“うーん。”彼らは皆それをキャッチして歌い始めました。彼らは歌っていました、“私たちが死ぬとき、私たちは悪を恐れませんが、なぜならイエスは私たちを腕に抱き、安全に家に連れて帰ってくださるからです。”

7 あの人たちは、なんと神を尊敬していたのでしょうか。私はその午後、いや、むしろその夜、彼らに神の癒しについて話しました。

そして翌日、私は丘の斜面でリスを狩っていました。のこぎりがくぼみに落ちていくのが聞こえたので、降りて彼らが何をしているのか見てみようと思いました。4、5人の男がライフルを木に当ててそこに立っており、多くの確執が続いており、彼らは木を切っていた。

そして彼らのうちの一人がこう言いました。「“その説教者は真実を語ったと私は信じています。”」

そして、彼らのうちの一人がこう言いました。“本当に素晴らしいサービスでした。”それが彼が自分自身を表現しなければならなかった唯一の方法だと思います。

そして、そこに…彼らがいる場所に歩み寄ると、彼らは話していました。彼

らのうちの一人が、大きなタバコを噛んでいました。まるで口の側面から突き出ている大きなタバコのように見え、顎が膨らんでいました。彼はただのヘッドスピーカーでした。歩み寄ったとき、私は言いました、“こんにちは。”そして彼らは振り返ると、この大きな男が私を見て、噛みタバコを飲み込み、帽子を脱いで言いました。“おはようございます、ブランハム牧師。”

私は、“まあ、それは彼を殺すのに十分でした、ほとんど”そのような大きなタバコの塊だと思いました。

8 しかし、午後に話している間に夕食が出されました。もちろん、ここにいる人たちにはそれは昼食だっただろうと思います。しかし今は夕食です。私は南部で朝食、夕食、夕食の3食を1日食べています。それで、夕食時にここで夕食の時間と言われ始めたとき、私は混乱しました、I—私は夕食を逃しました。それで、とにかく、馬が森の中でむしゃむしゃ食べていて、私はキリストの復活について話していました、そして、大きな老人がそこに立っていたとき、その場所は混雑して満員で、彼は祭壇に走って叫びました、“神よ、私の魂を憐れんでください。”そして、彼が上がってきたとき、なぜ祭壇の半分にも到達できなかったのでしょうか“神が私を救ってくださるなら。”だって、そこには50匹くらいの年老いた乳母がいて、一緒に祭壇で彼の首を掴んで倒していたんですから。

その日の午後、約 50 件の奇妙な変換がありました。そして今、彼らはそこに降りて、ただ乾いた目で告白して立ち上がったわけではありません。彼らは約 2 時間祈り続けました。彼らは起き上がり、服は汗を流した場所に絞り出すほど濡れていました。彼らは叫びながら立ち上がった。そして森の中を下り、丘を越えて、彼らは叫びました、“ハレルヤ!ハレルヤ!”

皆さん、聞いてください、彼らはバプテストだったかもしれませんが、彼らは本当に昔ながらの聖霊の宗教を持っていました。そうだね。だって彼らはそのように生きていたから。あなたの果実によってあなたは知られています。それは本当です。

9 さて、私が本を読んでいる間、あなたは祈ってください、もしよろしければ。聖ルカの第 15 章ではルカの第 15 章の第 11 節から始まる聖書のこれらの節を読みたいと思います。

そして彼は言った、「ある男には二人の息子がいました:」

…彼らのうちの子は父に言った、「父よ、私に渡される品物の部分を私にください」。そして彼は分けた—彼らに自分の生を分けた。

今、信じようとしている。

しかし魂は言う、『御霊よ、去ってくれ。

もっと都合のよい日に呼ぶから。』」

私たちが待っている間、聖霊が語っておられる……。

若者も、若い女性も、年老いた人も、前に集まっている……。

神の呼びかけに、なぜ応じないのか。

「魂は言う、『御霊よ、去ってくれ。

もっと都合のよい日に呼ぶから。』」

50 皆さんが席に着かれる前に、オルガンがそのまま奏で続けている間に、もしよろしければ——もうお一人いらっしゃいませんか。今すぐおいでください。

ご覧なさい。いつの日か、そう遠くない将来、この中におられる多くの方々がいなくなる日が来るでしょう。私もいつの日かなくなります。月がその光を放たなくなる日が来ます。太陽もその光を与えなくなる時が来ます。

ですから、もしあなたが本当に神との関係が正しいと確信していないなら、今日この午後、ここでそれをはっきりさせましょう。さあ、おいでください。よろしいですか。ここに立ってください。

覚えておいてください。もし神がご自身の奥義をそのしもべに示しておられるなら、そしてあなたがこの集会で起こっていることを見てきたのなら、今日はなんと素晴らしい日ではないでしょうか。

来てくださいませんか。

若い男性の皆さん、若い女性の皆さん。人生を歩み始めたばかりで、ちょうど分かれ道に立っているあなたがた。もしまだ救われていないなら、来てください。今この時、静かに、へりくだって、キリストのもとへ来てください。

51 いつの日か、すべては終わります。そしてあなたは主にお会いし、主のためになした行いについて申し開きをすることになるのです。

いつか、ある時には原子爆弾が投下され、この町は灰となって崩れ落ちるでしょう。生き残る者は一人もいないかもしれません。それは一年も先のことで

なぜ今夜でないのか。

ああ、なぜ、教えてくれ、なぜ今夜でないのか。」

天の父よ、今語ってください。

今この単純な招きに応じて祭壇に来る人々を受け入れてください。

御霊の大きな働きの中で。主よ、彼らを受け入れてください。

なぜ今夜でないのか。

友よ、聞いてください。

あなたは今ここにいます。しかし五百年後、どこにいるのでしょうか。

明日の太陽は、もう昇らないかもしれない。

あなたの長く迷った目を照らすことはないかもしれない。

今がその時です。賢くなりなさい。

なぜ今夜でないのか。(来ませんか。最後の招きです。)

なぜ今夜でないのか。

覚えていてください。あなたは尊いのです。

私はあなたと裁きの座で会わなければなりません。

今夜が、あなたに語る最後の機会になるかもしれません。

私はあなたにイエスを差し出しています。

来ませんか。

「ほとんど説得されている……」

ああ、神はあなたを愛しておられます。来ませんか。

まだ救われていない人、心に聖霊を持っていない人。

「ほとんど説得されている、

そして、それから数日も経たないうちに、若者は皆を集めて遠い国へ旅立ち、そこで騒々しい生活で自分の体を無駄にしてしまったのです。

そして、彼がすべてを使い果たしたとき、その土地で大規模な飢餓が発生しました。そして彼は欠乏し始めました。

そして彼は行って、その国の国民に加わりました。そして彼は豚に餌を与えるために彼を畑に送りました。

そして彼は豚が食べた穀で腹を満たしただろう。そして誰も彼に与えなかった。

そして、彼は心の中で言いました、「父の雇われた召使のうち、どれだけの人が十分なパンを持っているのでしょうか。..余裕があるのに、私は飢えて滅びます!」

私は立ち上がって父のところに行き、…彼に言いなさい、父よ、私は天に対して罪を犯しました、そしてあなたの前で、

そして私はもうあなたの息子と呼ばれるに値しません。私を…あなたの雇われた召使いの一人にしてください

そして彼は立ち上がって父親のところに来ました。しかし、彼がまだ遠くにいたとき、父親は彼を見て同情し、走って彼の首に落ち、キスをしました。

…息子は彼に言った、「父よ、私は天に対して罪を犯しました。あなたの目には、私はもはやあなたの息子と呼ばれるに値しません。」。

しかし父は家来たちに言った、「一番良いローブを持ってきて、それを着なさい。…彼の手に指輪を、足に靴を履いてください。」:

…太った子牛をここに連れてきて殺してください。…食べて楽しもう:

このために、私の息子は死んで、再び生きています;彼は道に迷って発見されました。そして彼らは陽気になり始めます。

主が御言葉に祝福を加えてくださいますように。

10 私は牧師でもなければ、話し手でもありません。

この地上で私に与えられた務めは、病人のために祈ることです。そしてそれを心から愛しています。

私は教育を受けた者でもありません。ただ一つ言えることは、聖書を読むとき、その御言葉を一語一語、そのまま受け取ることです。主がそのように言われたなら、私はそのまま語らなければなりません。

皆さん、どうか私と共に祈ってください。奉仕者である兄弟たちも、私がこの題についてほんの数分お話しする間、祈っててください。

さて、このたとえを語られたイエスは、失われた者、神から離れた者、遠くへ行ってしまった者に対する父の心を表そうとしておられました。

思い出してください。かつて私たちも皆、神から引き離され、断たれ、憐れみもなく、望みもなく、暗闇の世をさまよい、永遠に失われた者でした。

しかしイエスが罪人として私たちの立場を取り、私たちの代わりに死んでくださいました。そして御子が罪人となられたゆえに、父は私たちを喜んで受け入れてくださるのです。

なんと素晴らしい福音でしょう。

私はよく考えます。もしイエスがおられなかったなら、私の人生はどうなっていたのだろうか、と。

どこにいたでしょうか。

私の運命はどうなっていたでしょうか。

11 少し前に私は病院に横たわっていました。患者が望み得る限り最良の医師たちがいました。しかし麻酔が誤って心臓のほうへ回ってしまったのです。本来あるべき位置より上に入り込み、それが心臓に影響しました。

私の心臓は一分間にわずか十七回しか鼓動していませんでした。医師は父に、「あと三分しかもたない」と告げました。

ああ、どうやってあの場所から出られるというのでしょうか。

三分しか生きられない。

そのとき、私のすべての罪が目の前に立ちました。そして私は……自分の信仰として主張していなかったものがあつたのです。罪は、罪として目の前に立ちました。

ここにいるクリスチャンの皆さん、私たちはしばしば自分を正当化しようと

49 お母さんたち、どうして私たちがここで待ち、集まり、床にひざまずいているのか分かりますか。

今日の午後、主はどう思っておられるでしょうか。

ここに集まっているこの小さな群れが、義に飢え渴いているのを見て――。

ああ、神があなたがたを祝福してくださいますように、愛する友よ。

いつの日か……これは作り話ではありません。現実です。私たちは主に会うのです。

私は今、栄光と、天と、神と触れていると信じています。

そして父は、今日この午後、大いに喜んでおられると信じます。会衆を見渡し、義に飢え渴いている人を見つけておられる。今日でさえ、彼らは満たされるのです。

来ませんか。

まだ待っています。

ここに、神との関係が正しくないと分かっている人はいませんか。聖霊を受けていない人はいませんか。

前に来て、祈りましょう。

この古い賛美歌を歌いましょう。

「御言葉を退けてはならない、

光に目を閉じてはならない。

ああ、罪人よ、心をかたくなにするな。

今夜、救われよ。

なぜ今夜でないのか。

なぜ今夜でないのか。

救われるのなら、

その輝く日は明日かもしれない、

あの岸辺に。

48 向こう岸に父を持っている人はどれくらいいますか？手を挙げてください。

ああ……。

向こう岸に母を持っている人はどれくらいいますか？手を挙げてください。

兄弟姉妹よ、いつの日か、私たちは彼らに会うのです。そうでしょう？

もし自分の信仰の確かさに自信がないなら、今、前に出て来ませんか。

歌いましょう。

「その輝く日は明日かもしれない、

その輝く日は明日かもしれない、

その輝く日は明日かもしれない、

あの岸辺に。」

「ああ、なんと幸せな再会でしょう。

なんと幸せな再会でしょう。

なんと幸せな再会でしょう。

あの岸辺に。」

私は覚えています。私の兄が病院で息を引き取るとき……

「ビルに伝えてくれ、向こう岸で会おうと。」

「ああ、その輝く日は明日かもしれない、

その輝く日は明日かもしれない、

その輝く日は明日かもしれない、

あの岸辺に。」

しますね。

「これはそんなに悪いことじゃない」と言うでしょう。

しかしどんなに小さく見えても、最も小さな罪であっても、必ず告白されなければなりません。あなたには小さく見えても、神の目には罪なのです。

最初の罪がどれほど小さく見えたかを考えてみてください。しかしそれが人類に何をもたらしたかを見てください。

最初の罪が犯されたとき、どれほどの違いが生じたでしょう。

天にその知らせが届いたとき——「あなたの息子が墮ちました」と。

本来ならアダムは園を走り回って、「お父さん！お父さん！どこにおられるのですか！」と叫ぶべきだったでしょう。

しかしアダムは身を隠しました。

そして逆だったのです。

父のほうと呼ばれたのです。

「息子よ、息子よ、どこにいるのか？」

人はどうしても自分を正当化しようとし、何かの陰に隠れようとするのです。自分が何であるかを正直に出て来て、神の前で罪を告白する代わりに、何かの背後に隠れようとするのです。

12 ここで見えるのは、神が園を歩き回り、走り回り、失われた息子を探し求め、おられる姿です。

父が息子を捜し、追い求めているのです。本来なら息子が父を捜すべきだったのに。

そして今日もまったく同じです。

人は罪を犯すと、神の前に出て罪を告白する代わりに、何とかして隠れようとし、何かの陰に身を隠そうとするのです。自分で作り上げた宗教の後ろに隠れようとし、

アダムを見てください。彼らはイチジクの葉で前掛けを作り、それを身にま

としました。しかし神がアダムとエバを御前に立たせたとき、彼らはそれが人間の作った宗教であることを思い知らされました。

「宗教」という言葉は「覆い」という意味です。

彼らは自分で作った前掛けで覆われていたのです。わかりますか。

この傾向は、今日もなお人の中にあります。

神の方法によって悔い改め、御子を信じ、その御子の血によって罪を清めていただく代わりに、私たちは回り道をし、別の方法、神の道を通らずに済む逃げ道を探そうとします。

「まあ、この宗教なら……これに入ろう。あまり厳しくないところで……」と言うのです。

しかしイチジクの葉は、神の御前に立つときには何の役にも立ちませんでした。

そして、愛する友よ、よく覚えておいてください。人間が作り上げた理論や教えは、この肉体と命の最後の息を迎えるときには、決して役に立ちません。

それらによって生きることにはできるかもしれません。

しかし、それによって死ぬことはできないのです。

私の奉仕の年月を考えると、おそらく同じ年齢の多くの人よりも、私は多くの臨終の場に立ち会ってきたと思います。というのも、死にゆく人々のもとへしばしば呼ばれてきたからです。

13 少し前、私たちの町で、ある若い女性が聖霊のバプテスマを受けました。彼女は幕屋(タバナクル)に来るようになりました。

町にはもう一人、非常に人気のある若い女性がいました。彼女は近代的な宗教団体に属していて、キリストの血やその贖いの覆いを否定していました。そして私たちのことを、「あれはカルトだ」「聖なるローラー(熱狂者)だ」と言っていました。私たちがキリストの救いの恵みを信じているからです。

もしそれが“聖なるローラー”である条件なら、私はその一人です。私は御血を信じているからです。

その若い女性はダンスやショーに行っていました。しかし彼女は教会の日

「おお、今夜、私の息子はどこにいるのか？」

(友よ……困難な人生です。)

「おお、今夜、私の息子はどこにいるのか？」

私の心はあふれている。

あの子を愛していることを、あの子は知っている。

「おお、どこに……」

47 (テープ欠落)……来なさい。

ああ、素晴らしいですね。あちらこちらから集まり、前に出て来ています。

おお、クリスチャンの皆さん、これは美しいではありませんか。

手を挙げてください。素晴らしい。

この午後、主がここに立っておられると思いませんか？

ここにひざまずいている人たちを見てください……(テープ欠落)

私は向こうに父を持っています、

私は向こうに父を持っています、

私は向こうに父を持っています、

あの岸辺に。

ある輝く日に、私は主に会いに行きます、

ある輝く日に、私は主に会いに行きます、

ある輝く日に、私は主に会いに行きます、

あの岸辺に。(さあ、歌いましょう。)

その輝く日は明日かもしれない、

その輝く日は明日かもしれない、

時間が過ぎていることに気づきませんでした。

放蕩者はいますか。

手を挙げてください。

神から離れてしまった人、今すぐ手を挙げてください。

「ブラナム兄弟、私は放蕩者でした。今すぐキリストを見いだしたいのです。」

46 ここに、まだ聖霊を受けていない方はどれくらいいますか……？

まだ受けていない方。神の祝福がありますように。

天に向けて手を挙げている皆さん、聖霊を受けていないなら、今ここへ前に出て来ませんか。

もう一度あの歌を歌いながら――

「Tell Mother I'll Be There(母に伝えて、私は帰ると)」を歌いながら、ここへ来てください。

そして今ここで、神と語り合しましょう。

私が盲人の目を開き、ろう者の耳を開いていただくのを主がしてくださると信じるなら、今あなたの必要のための祈りも聞いてくださると信じませんか？

歌いましょう。

皆で一緒に。

「母に伝えてください、私は帰りますと……」

(そうです。罪人の友よ、前へ来てください……神があなたを祝福します、兄弟よ。神があなたと共におられますように。姉妹よ、神があなたを祝福します。兄弟よ、神があなたを祝福します。)

「母に伝えてください、私は帰りますと。天の喜びを母と分かち合うために。

そうです、愛する母に伝えてください、私は帰りますと。」

今夜、父が息子を呼んでいる声が聞こえます。

曜学校の教師でもありました。その教会はキリストの血を否定し、「そんなものは存在しない」と言っていました。牧師は「それは1900年前に乾いてしまった。今は社会的福音だ」と言っていたのです。

やがてその若い女性は、何人かの若者と交際するようになりました。見た目はきれいな女性でした。

一方、もう一人の若い女性は幕屋に来ていました。彼女は少し古風な服装をしていました。髪をきっちり後ろにとかし、いわゆる化粧や顔に塗るものなどは使わず、まっすぐ通りを歩いていました。

ええ、これは事実です。私たちはそれに反対する教えをしています。説教者たちが本当に福音に立ち返るよう、神が助けてくださいますように。

聞いてください、婦人の皆さん。聖書の中で、男に会うために自分を塗り飾った女性は一人だけでした。それはイゼベルです。そして神は彼女を犬に食わせました。

ですから、そういうことをしているのを見るなら、「こんにちは、犬の餌さん」と言えばいいのです。まさにその通りでした。神は彼女を犬に食わせたのです。あなたは彼女のようになりたくはないでしょう。

神はあなたの歩みの中で美しくしてくださいます。本当の美しさとは、その行いによるのです。

しかし、私たちのホーリネス教会でさえ緩み始めています。これは真実です。あなた方は、もう一度昔のまっすぐな基準線、福音そのものへと立ち返るべきです。

14 さて、聞いてください。

その若い女性は思いのままに生きていました。ダンスやパーティーに出かけ、あらゆる遊びに加わっていました。

やがて彼女は病気になりました。何が原因か分かりませんでした。しかし医者が診察すると、彼女は性病にかかっており、すでに手遅れの状態でした。注射も試されましたが、効きませんでした。

それでも牧師は彼女に、「あなたは日曜学校の教師だから、そのまま天国へ行く」と言いました。

そこで人々は部屋に集まり、彼女が天に召されるのを見届けようとなりました。主の御使いが迎えに来るのを見るためにです。

私は少し前にその家の前を通りかかっていた。立派な大きな家で、良い家族でした。牧師は部屋を出て廊下に座っていました。日曜学校のクラスの人たちは皆、彼女が天へ行くのを見ようと賛美歌を歌っていました。

その牧師は廊下に出て、たばこを吸っていました。

そのとき死がその若い女性を襲いました。彼女は突然取り乱し、叫びました。

「その子はどこ？ あの子はどこ？」

人々は言いました。

「どの子のこと？」

彼女は言いました。

「ここにいるクラスの人たちのことじゃない。」

そして言いました。

「幕屋から来ていた、あの子よ。私の魂のことを話してくれたあの子よ。(名前を呼んで)あの子を呼んできて。」

15 人々は牧師を呼びに行きました。牧師は慌てて部屋に入って来て言いました。

「さあ、落ち着きなさい。医者を呼んで注射をしてもらおう。少し取り乱しているだけだ。」

しかし彼女は言いました。

「私は取り乱してなんかいません。」

あなたは人を欺く者です。あなたがそう教えたから、私は失われ、地獄へ行くのです。」

そしてその若い女性は、神の御前に出て行きました。失われたまま、正しいことを語ってくれたあの少女を求めながら、泣き叫びつつ。

世の中で、罪人として、病院のベッドに横たわり、死にかけていました。

医者は言いました。

「あとわずかしか生きられない。」

しかし私は泣きながら、道を下って行きました。

泣きながら、天の父のもとへ走りました。

すると父は私の首に口づけし、私のすべての罪と重荷をぬぐい去ってくださいました。

聖霊という衣を着せ、指に婚約の指輪をはめてくださいました。

私はいつの日か、どこかへ行くのです。

そしてここで、主の民の中に置いてくださいました。共に喜び、共に生き、幸せに過ごすために。

なぜでしょうか。

私はかつて死んでいたのに、今は生きているからです。

かつて失われていたのに、今は見つけられたのです。

ああ……。

今日、この世には多くの放蕩者がいます。

放蕩の男、放蕩の女。

神はすべての者に悔い改めを呼びかけておられます。

その通りではありませんか。

神は来ることを望んでおられます。

あなたに来てほしいのです。

すべての放蕩者よ、帰って来なさい。

今日ここに、道を踏み外している放蕩者はいないでしょうか。

母さんに伝えてください、私は帰りますと。天の喜びを母と分かち合うために。

そうです、愛する母に伝えてください、私は帰りますと。」

44 彼が言うのが聞こえます。

「立ち上がって、父のもとへ帰ろう。」

そして彼は戻って来ます。

夜が明け、朝日が畑を照らしています。

靴はなく、衣服はぼろぼろで、よろめきながら家へ向かっています。

母が言います。

「お父さん、あそこに来るのは……あの子よ。」

父が言います。

「あれは、私の息子だ。」

彼が言います。

「お父さん、私はあなたの息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください。ただ……」

しかし父と母は、門を出て彼のほうへ走って行きます。

彼が何をしてきたかは関係ありません。

今、彼は帰って来たのです。

父は走り寄り、腕を回して抱きしめます。

「肥えた子牛を連れて来て屠りなさい。祝おう。この子は死んでいたのに生き返った。失われていたのに見つかったのだ。指輪をはめなさい。靴を履かせなさい。家で一番良い衣を着せなさい。」

それが、今日ここにいるすべての罪人に対する父の態度です。

45 私もかつては失われ、滅びの中にいました。

兄弟よ、よく聞いてください。

この人生の旅路の終わりに差しかかる時、あなたはきっと思うでしょう。神の前で、清く聖い生活を送っていたらよかったと。

どうかそれを忘れないでください。

さて、あなたがどの教会に属しているか、それは神にとって何の意味もありません。

問題は、あなたの心の中がどうであるかです。

その通りです。

神はあなたに「どの教会に属していたか」を尋ねられるのではありません。神が見られるのは、あなたの心がどうであるか、なのです。

16 さて、ここでイエスが語られた、父と家を出て行った息子の話を見てください。主はきっと、神が人を捜し、呼び、悔い改めへと引き寄せておられるその御心を思っておられたのでしょう。

そして今日もなお、聖霊はこの地を巡り、失われた者、滅びゆく者を呼び続けておられます。

さて、イチジクの葉のことに戻る前に、もう一言申し上げます。

神がアダムたちと出会われたとき、彼らは自分たちで作った宗教を持っていました。つい二十四時間も経たないうちに、ある人が私にこう言いました。

「ブラナム兄弟、私の宗教が何か知っていますか？」

彼は言いました。

「私の宗教は“黄金律”です。『自分がしてもらいたいことを人にもしなさい』ということです。」

私は言いました。

「それは立派なことです。しかしそこには救いがありません。」

その通りです。

「人は新しく生まれなければ、決して神の国に入ることはできない。」

神の御霊によって生まれ、刷新され、再生され、キリスト・イエスにあつて新しい人とならなければなりません。古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなるのです。

回心するとは、変えられることです。

これまでこちらの道を歩いていたのが、向きを変えて反対の道を歩き始めることなのです。

17 さて、彼らが神の前に立ったとき、アダムは出て来るのを恐れました。

彼は言いました。

「私は裸です。」

ここで注目してください。神は外へ行き、皮を取って来て、それで前掛けを作り、彼らに着せられました。

考えてみてください。皮を得るためには、何かが殺されなければなりません。覆いを作るためには、何かが死ななければならなかったのです。

神は何かを殺し、その皮を取られました。

彼らの代わりに何かが死んだのです。罪の報いは死であるからです。

ですから、有罪の者を覆うために、罪のない犠牲が死ななければなりません。でした。

そして今日も同じです、友よ。

黄金律ではありません——それは良いことです。

十戒でもありません——それは聖いものですが。

神はあなたを覆うために、何かを殺されました。

御子キリスト・イエスがカルバリで死なれたのです。

罪なき方が、罪ある者のために。

それは、あなたと私が神の前でキリストにあつて罪なき者となる道を開くためでした。

「おお、今夜、私の息子はどこにいるのか。

おお、今夜、私の息子はどこにいるのか。

私の心はあふれている、

あの子を愛していることを、あの子は知っている。

おお、今夜、私の息子はどこにいるのか。」

43 ああ……。

父は遠くへ行ってしまった息子を思いながら、道を見つめています。

そして私は、あの若者が我に返り、ふと振り向く姿を見ます。

まるで母の祈る声が聞こえたかのように。

神の御使いたちが、その祈りを携えているのです。

彼は立ち上がり、歌いながら言います。

「母さんに伝えてください、私は帰りますと。

母さんの祈りへの答えとして。

この知らせを、守護の御使いよ、母に届けてください。

母さんに伝えてください、私は帰りますと。天の喜びを母と分かち合うために。

そうです、愛する母に伝えてください、私は帰りますと。」

今日、すでに天に行かれた母を持つ方はどれくらいいますか？手を挙げてください。

では、手を取り合って一緒に歌いましょう。

「母さんに伝えてください……(母に会うと約束しましたか?)

母さんの祈りへの答えとして。

この知らせを、守護の御使いよ、母に届けてください。

しかし今は、彼を愛し、世話をしてくれる人は誰もいません。
 冷たい世の中で、ただ一人、自分の力で生きなければなりません。
 聞こえるのは、豚のうなり声だけ。
 やがて彼は、母がよく知っていた古い歌を口ずさみ始めます。
 たぶんこんな歌だったでしょう。
 「もう一度、母の祈る声を聞けたなら、
 もう一度、あの優しい声を聞けたなら、
 どれほど嬉しいだろう、どれほど意味があるだろう、
 もう一度、母の祈る声を聞けたなら。」
 ここにいるあなた。
 年老いた母を持つあなた。
 今日の午後、もう一度母の祈る声を聞きたいと思いませんか。
 多くの人が……。
 もし彼が母の祈りを聞けたなら。
 天の御使いたちが見下ろしています。
 今、祈りなさい。

42 そして再び場面は父のほうへ移ります。
 父は落ち着かなくなり、上着を引っかけて門の外へ出て行きます。
 月明かりの夜です。道の向こうを見つめながら思います。
 「今ごろ、あの子はどこにいるのだろう。」
 私の父も、私が幼いころ、こんな歌をよく歌っていました。
 古い父が歌う姿が目には浮かびます。父は赤いハンカチをポケットに半分ほど差し込んで、立ち上がってこう歌いました。

そして今日も聖霊はこの地を巡り、キリスト・イエスを信じる者を見いだそうとしておられるのです。

18 さて、この物語はここから始まります。私にとってとても心を打つ話です。今から少しその場面に近づいてみましょう。よく聞いてください。

今日は一つのドラマを思い描いてみましょう。少し場面をさかのぼって、子どもたちにも分かるように描いてみましょう。

神よ、今日の時代の子どもたちを助けてください。

少し前のことです。あの有名な J・エドガー・フーバーの組織で、少年課全体を統括していたアル・ファーラー大尉という立派な人物が、私の集会に来て回心し、キリストへ導かれました。

私は彼の事務所に立ったことがあります。

それはこういうことでした。私はカリフォルニア州フレズノで三夜の集会をしていました。そこからシアトルへ行きました……(テープの欠落)……会場へ。

私が会場に入ると、至る所に警察官が立っていました。小さな部屋へ通され、そして戻って来ると、ボズワース博士が挨拶をしており、私を紹介しようとしていました。

ちょうどそのとき、私服の男性が前に出て博士の肩に手を置き、こう言いました。

「一言申し上げたい。」

ボズワース博士は言いました。

「それは通常ここでは行われていません、失礼ですが。」

するとその男性は身分証を示しました。彼はアル・ファーラー大尉でした。博士は言いました。

「はい、どうぞ。」

会場には一万人が集まっていました。

彼は言いました。

「皆さん……私はアル・ファーラー大尉です。ここワシントン州タコマが私の故郷ですから、私をご存じの方も多いでしょう。」

そして続けました。

「私の仕事は、詐欺や不正を取り締まることです。このブラナムという人物が病人のために祈っていると聞いたとき、私はフレズノへ行き、その詐欺を止めるつもりでした。」

「私はそれらのことを見ました。説教も聞きました。しかし彼は私には詐欺師には見えませんでした。」

「そこで私たちは医師を連れて来ました。そして小児麻痺で手足が麻痺していた少年を送り込みました。」

「私たちは二晩観察しました。ついにその少年が祈りの列に入りました。」

「彼が前に出ると、ブラナム兄弟は『この子はポリオの犠牲者です』と言いました。そして父親に信じるかと尋ねました。その父親は警察官でした。」

「父親は信じると言いました。」

「ブラナム兄弟は『八日のうちにこの子はよくなる』と言いました。」

「私たちは見守りました。そして今夜、その少年はこのカーテンの後ろに立っています。完全に正常に回復し、学校へ戻っています。」

そして彼は言いました。

「皆さん、どうか安心してください。私たちは彼らの資金の流れも調べました。何に使われているかも確認しました。」

「これは詐欺ではありません。全能の神の御手です。」

19 翌日、彼は私をその大きな刑務所へ連れて行きました。そこには若い女性たちも収容されていて、中には銃撃戦を起こした者もいました。彼女たちは床を歩き回りながら、互いにののしり合っていました。

彼は言いました。

「どう思いますか、ブラナム牧師？」

を食べている……」

聖書は言います。

「彼は我に返った。」

それこそ今日、教会がすべきことです。

我に返ることです。

あなたの父がどなたであるかを思い出すことです。

時に私たちは、まるで天の父がいないかのように振る舞います。

しかし天のすべての祝福は、教会に属しているのです。

神の癒しも、救いも、心配からの解放も、すべて教会のものです。

イエスが死なれました。

そして私たちは、その方によって神のすべてを受け継ぐ者、御国の相続人、豊かな者なのです。

「私の父は家や土地に富み、

この世のすべての富を御手に握っておられる。」

それが私たちの姿です。

ただ我に返りさえすれば。

ああ、彼が我に返り始める姿が見えます。

「家に帰れたらいいのに。しかし私は罪を犯した。もう家に帰る資格はない。」

では、どうしたらよいのだろうか？」

41 そして彼は……

小さかった頃を思い出します。

病気になったとき、母が揺りかごを揺らし、部屋の中を行ったり来たりしながら、愛し、世話をしてくれたことを。

さて、あの若者を見てください。

豚小屋に横たわっています。

夜になると、その場所は悪臭に満ちていたでしょう。

彼は豚のそば、餌桶の近くに身を横たえています。

その夜、落ち着かない母と父が、息子のことを話し始めます。

母が言います。

「お父さん、私はどうにも落ち着かないの。あの子のことばかり考えてしまう。今どこにいるのかしら。何か食べているかしら。」

父が言います。

「私たちはいつも教えられてきたではないか。神を愛する者には、すべてのことが益となる、と。祈ろう。」

二人は床にひざまずき、小さなジョニーのために祈ります。

「神よ、どうか私たちの息子を守ってください。どこにしようと、どんな状態にあろうと、守ってください。そして彼を家へ帰してください。」

彼はどこにいるのでしょうか。

豚小屋です。

豚小屋へ向かい、豚小屋にいるのです。

40 神の御使いが彼のところに来て言ったのです。

「若者よ、目を覚ましなさい。」

そして語りかけました。

「なぜ家に帰らないのか？」

彼は思います。

「父はあれほどの財産を持ち、私にあれほどのものを与えてくれた。

それなのに私はここで飢えて死にそうになり、豚小屋で横たわり、豚の餌

私は言いました。

「ああ……。」

そして、「彼女たちに一言話してもよろしいですか？」と尋ねました。

彼は言いました。

「もちろんです。」

それから若い男性たちのいる区画へ行きました。そこでも彼らはひどい状態でした。

彼は自分の机からボタンを押すと、特定の独房が開く仕組みを見せてくれました。それはその場所からしか操作できません。もし誰かが彼を撃とうとすれば、彼はそのボタンを押すだけで、すべての扉がロックされ、警察官たちがすぐに配置につくようになっているのです。

見学が終わると、彼は二人の警備員を連れて私と回廊を歩きました。

そして言いました。

「銃はお好きですか、ブラナム兄弟？」

私は言いました。

「はい。」

20 私たちはさらに下のギャラリーへ降りて行きました。まるで独房のような場所でした。

彼は言いました。

「ここで若者たちに訓練をするんです。」

そして、どれくらいの距離からどのように撃つかなどを説明し始めました。

その間、彼が何度も私を見下ろしているのに気づきました。何をしようとしているのだろう、と私は思いました。

やがて彼は一緒にいた警官たちを帰らせました。

私たちはその小さな金属に囲まれた部屋に二人きりになりました。

彼は言いました。

「ブラナム兄弟？」

「はい。」

彼は私の肩に手を置きました。

私は心の中で、「ああ……」と思いました。

彼は言いました。

「私にも望みはあるでしょうか。」

私は言いました。

「どういう意味ですか、ファーラー大尉？」

彼は言いました。

「私は……悪い人間ではなかったと思います。法を守り、正しいことをしようとしてきました。」

私は言いました。

「それはあなたの職務です。」

彼は言いました。

「でも、本当にイエスを見いだしたいのです。」

私は尋ねました。

「信じますか？」

彼は言いました。

「はい、信じます。しかし神を見いだしていません。」(テープ欠落)

「この町の教会に属しています。でも……私はその方を知らないのです。自分を欺く必要はありません。教会に入り、何年も会員ですが、そのような形では私は神を知っていません。」

私は言いました。

聖書から離れたからです。

その教えから離れ、世とともに生きようとしたからです。

世から離れなさい。

聖書は言っています。

もしあなたが世、あるいは世のものを愛するなら、父の愛はあなたの中ではありません。

そこから離れなさい。

もしそのような欲望が心の中にあるなら、祭壇に戻りなさい。

アーメン。

それが完全に消えるまで、そこにとどまりなさい。

ああ。

それが私の語る昔ながらの信仰です。

欲望そのものを取り去る信仰です。

39 私が初めて回心したとき、ある若い女性が来て言いました。

「ブラナム兄弟、タバコも吸わず、酒も飲まず、ショーにも行かないで、いったい人生のどこに楽しみがあるのですか？」

その数日後、八人か十人の罪人が祭壇に来ました。

私は言いました。

「あなたがこの世で十年かけて味わう楽しみよりも、私はその一分間のほうがはるかに大きな喜びを感じます。」

失われた人が神のもとへ来る――

そこに私たちクリスチャンの喜びがあります。

キリストにあって新しく生まれた魂が御国に入るのを見ること。永遠の魂、真実なもの、それこそが喜びです。

「最初にガソリンスタンドで盗んだとき、泥棒になるつもりはなかった。」

しかし悪魔が望んでいるのは、あなたに“始めさせる”ことだけです。

あとは彼が連れて行きます。

一度でも彼の陣地に足を踏み入れてみなさい。どうなるか分かります。

あなたは悪いと知っている。

しかし暗闇の力、空中の権を持つ支配者の影響が、あなたを罠へと導きます。

立ち上がらなければなりません。

世のものから離れ、出て来て、キリストのために生きなさい。

その通りです。

38 その若者の姿を思い浮かべてください。

今や彼は豚に餌をやっています。

豚小屋の中で、豚に餌を与え、同じ餌桶から食べています。

かつて持っていたものと、今の姿を比べてみてください。

彼が使い果たした財産は、本来父が汗して得たものでした。

しかし今、彼は豚小屋にいます。

耳に入るのは豚のうなり声だけ。

それが今日の姿です。

今この瞬間も、多くの母の息子が、飲み屋で酔い、いかがわしい場所にあります。多くの若い女性が、通りで身を売っています。

なぜか？

家を離れたからです。

神から離れたからです。

「分かりました、ファーラー大尉。あなたがただ信じるなら、受け入れることができます。」

彼は言いました。

「あなたがワシントンを離れる前に、どこかで会う約束をしてください。一緒に行き、そこでじっくり話しましょう。あなたが決めてください。食事をし、それから一緒に出かけましょう。私のヨットを出して湾に出ることもできます。」

21 私は言いました。

「アル・ファーラー大尉、主はここであなたを受け入れてくださいます。」

彼は言いました。

「こんな場所ですか……？」

私は言いました。

「はい。」

彼は言いました。

「主はこんなところにも来てくださるのですか？」

私は言いました。

「主は一人の人のために鯨の腹の中にまで行かれました。

主は御自分の子どもたちを救い出すために、燃える炉の中にも入られました。

この回廊にだって来てくださいます。」

そのとき、その警官は銃を外し、床に置きました。そして私に腕を回しました。

そして神が奇跡的にその場に臨み、彼を救われたのです。

今では彼は福音を宣べ伝えています。

説教者が出て行きながら、なお父なる神が失われた者を気にかけておられることを証しているのです。

あなたが誰であろうと、どんな環境にしようと、イエスはあなたを受け入れるために、どこへでも来てくださいます。

22 この放蕩息子を見てください。

彼がいた場所はどこだったでしょうか。ヘブル人にとって最も忌むべき場所、それは豚小屋でした。

さあ、この場面を思い描いてみましょう。

昔ながらの田舎の家を想像してください。しばらく心の中で描いてみましょう。

私はこう見ることができます。

一組の立派な老夫婦がいます。一生懸命に働き続け、二人の息子を育てました。もちろん、息子は相続人となります。

そしてこの弟のほうの息子は……

そうですね、毎週日曜日には教会へ行き、神を愛し、心から神に仕えていたとしましょう。

しかしある日、この若い息子は、交わるべきでない仲間と出歩き始めました。

若い男性よ、若い女性よ、よく聞いてください。

クリスチャンの影響の下を離れた瞬間、あなたは危険な手の中に入っています。その時点で、あなたはすでに戻る道に立っているのです。

聖霊の影響の下を離れた瞬間からです。

相手がどんな少年でも、どんな少女でも、救われていないなら近づかないことです。その通りです。男性も同じです。

ある人は言います。

「私はバーと一緒に入っても大丈夫だ。彼がビールやウイスキーを飲んでいる間、私はコーラを飲んで、同じまま戻って来られる。」

私は疑います。

しかし彼は飢えていました。必要に迫られていました。

仕事を受け入れざるを得ませんでした。

そして与えられたのは、最も卑しい仕事でした。

それが悪魔のやり方です。

ひとたび坂道を下り始めると、悪魔は持てるすべてであなたを踏みつけます。

私はそれを見てきました……(テープ欠落)……

そのとき、彼はもう「いいやつ」ではありませんでした。

37 彼はその国の市民のもとに身を寄せました。

その市民は、彼に大きな餌桶を二つ渡し、豚に餌をやらせました。

考えてみてください。

ユダヤ人の若者が、豚小屋で豚に餌をやっているのです。母から離れ、かつて持っていた信仰から離れ、豚を避けるべき立場だった者が、今やその中に身を置いているのです。

それが悪魔のやり方です。

「最初の本くらい、害はない」と言って、最初のタバコを吸わせます。

やがて、タバコの奴隷になります。

「社交的に一杯飲むくらい、害はない」と言います。

私は、絞首台へ向かう前の人のそばに立ったことがあります。電気椅子へ向かう前にも立ちました。

彼らは言いました。

「賭博師になるつもりはなかった。」

「カードをしていたとき、賭博師になるつもりはなかった。」

「酒飲みになるつもりもなかった。」

金があるうちは友だちがいる。しかし金がなくなれば、友だちもいなくなる。

それは「晴れの日の友」なのです。

しかし私は、あなたが一銭も持っていないくても、そばにいてくださる友を知っています。

神の御子イエス・キリストです。

私は一文無しになったことがあります。

それでも主は私を愛してくださいました。

もし私に一銭もなくても、百万ドル持っていて、主の愛は変わりません。

主は同じようにあなたを愛しておられます。

その純粋で、聖く、混じりけのない愛は、神からのみ来るのです。そしてその愛が、神の民のうちに注がれます。

私たちも、その神的な愛をもって互いに愛し合うべきです。

36 やがて彼は賭博場や、いかがわしい場所へ出入りするようになります。

そしてついに金は尽き、友だちもいなくなりました。

彼は人気者でした。どんな女性ともデートできました。

しかし金がなくなれば、彼女たちも群衆とともに去っていきました。

それが悪魔のやり方です。

金があり、人気がある間はよい。しかしそれが尽きたとき、あなたは終わりです。世の中にとっては、それだけのことです。

やがて彼は仕事を探さなければなりませんでした。

その国の市民、豚を飼う者のところへ行きました。

今や彼がどこまで落ちたかを見てください。

ユダヤ人でありながら、豚の死骸に触れることさえ許されていない立場の者が。

聖書は言っています。

「悪のように見えるものからさえ避けよ。」

敵の陣地に立つてはいけません。

昔のトボガン(そり)の滑り台のようなものです。とても滑りやすい。少し動いたと思ったら、気づく前に滑り落ちているのです。

23 (テープ欠落)……丘を越える道を誰に任せるか、という話がありました。

ある者が言いました。

「私は馬を全速力で走らせても、崖の縁から二フィート以内まで寄せて、決して落ちません。」

別の者は言いました。

「私は六インチ以内まで寄せても、決して落ちません。」

そして彼は三人目に尋ねました。

「君はどうだ？」

その人は言いました。

「私はできるだけ崖から離れて走ります。」

すると彼は言いました。

「よし、君に任せよう。」

どれだけ罪に近づけるかを試してはいけません。

どれだけ罪から離れられるかを考えなさい。

できるだけ遠くへ。

完全に断ち切りなさい。

私たちアメリカの人々が、あのようなことをして墮落しているのは本当に恥ずべきことです。

今日、家庭を訪ねると……私はクリスチャンの家に入ったことがあります

が、冷蔵庫を開けるとビール缶でいっぱいでした。クリスチャンの家庭だと言うのです。

クリスチャンはそのようなものに関わりません。

私たちは昔ながらの祈りの祭壇を家から取り除き、その代わりにカードテーブルを置いてしまいました。それが子どもたちを非行少年へと変えてしまったのです。

それは「少年非行」ではありません。

「親の非行」なのです。

もし親が子どもを正しく教え、どこにいるのかを見守り、世話をしていれば、あのようにはならなかったでしょう。

その通りです。

24 浜辺で水着姿のまま男性の前に横たわっている若い女性たちを見てください。通りでは、下品な服装で歩いている人たちもいます。そして誰かが彼女たちを侮辱すると、あなたは腹を立てるでしょう。しかし、原因はあなた自身にあるのです。そのような姿で送り出した、あるいはそのまま出歩かせたのはあなたなのです。

先日、ある若い女性と話しました。

彼女は言いました。「日焼けしたいんです。」

私は言いました。

「私は家に小さな娘がいます。将来どうなるか分かりませんが、もしそんなふうに横たわっているのを見つけたら、“サン・タン(sun-tan)”ではなく“サン・タニング(son-tanning)”になるでしょう。つまり、ブランナム家の息子が、家に連れて帰ってから棒か何かでお尻をたたいてやる、ということです。」

本当に必要なのは、そのような“正しい種類のしつけ”なのです。

(会衆拍手)

私の父は……十戒や黄金律を教えました。それだけではなく、必要なら物置小屋へ連れて行きました。

床にひざまずきます。

母と父が互いに腕を回し、神に祈る姿が見えます。

「神よ、ここまで育ててきました。今、私たちのもとを離れてさまよおうとしています。どうか父よ、守ってください。」

しかし息子は……祈りの間、落ち着かずにいます。

もう母や父の祈りを聞きたくないのです。心は別のことでいっぱいです。

だからこそ、私たちは時にせっかちになるのです。

数分も待てない。祈れない。祈りを待てない。

しかし、友よ、やがて永遠の中で考える時間が来ます。

今、祈りなさい。

今、主に会う備えをしなさい。

祈りが終わります。

母が抱きしめようとしませんが、彼は顔を背けます。

父が腕を回します。

彼は叫びます。「もういいよ、行ってくる。」

そして丘を越えて行きます。

父と母は、互いに腕を回しながら立ち、彼が丘を越え、町へ、世の中へと下って行くのを、手を振って見送ります。

やがて二人は家へ戻ります。

涙を流し、泣き、祈りながら。

35 やがて彼は町の大勢の仲間と交わるようになります。

金がある間は、彼は「いいやつ」でした。

世の中とはそういうものです。

「どうしたの、お父さん？」

父は言います。

「ああ……分からないよ、母さん。」

両親がもし善良で、神に救われた人であるなら、子どものことで心を痛めるものです。

私も父親です。ここに、今まさに私の話を聞いている小さな息子が座っています。神はご存じです。私は彼を愛しています。

もし今日の午後、どちらかが死ななければならぬとしたら、私はこう言います。

「彼の一度の死の代わりに、私が一万回死なせてください。」

その通りです。

彼を生かしてください。

それが、自分の子に対して持つ愛です。

だからこそ、神は御自分の子らであるこの世を愛されたのです。

そして私たちが自由になるために、ご自身が来られ、死なれました。

その罰を、ご自身で支払われたのです。

34 その父は、疲れた様子で行ったり来たりしています。

そしてついに、息子が出て行く日が来ます。

私は、彼が小さなスーツケースをまとめ、外へ出る姿を思い浮かべます。

彼は振り返って言います。

「じゃあな、みんな。」

母が言います。

「ちょっと待って、お願い。出て行く前に、もう一度だけ一緒に祈りましょう。」

「むちを惜しむ者は子を損なう」とあります。

25 私はこの若者の姿を思い浮かべます。

彼は出て行きます……(テープ欠落)……

誰かが彼に言うのです。

「どうしてあの古い教会なんかに行くのをやめないんだ？ 毎週、ただ教会に通っているだけじゃないか。」

しかし、教会以上に良い場所などありません。

私は彼がこう言うのを聞くようです。

「どうして町へ出ないんだ？ 明るいネオンの下で、若者らしく生きてみろよ。」

やがて彼は父に言う決心をします。父も年を取り、母も年を取っています。

ある日、彼は帰って来て、疲れた様子で、ついに父や母に口答えし始めます。

そしてこう言います。

「父さん、私の取り分をください。もうこの家でこうしているのはうんざりだ。日曜といえば教会ばかり。ほかの若者たちはみんな好きなことをしている。あっちへ行ったり、こっちへ行ったり。自分の思うように生きている。私も彼らと同じようにしたいんだ。」

決して群衆について行ってはいけません。

イエスに従いなさい。

しかし、それが若者の態度ではありませんか？

「みんながやっていることをやりたい。」

あなたは決して彼らを模範にはしてはいけません。

あなたの模範はイエスでなければなりません。

26 そして私は彼がこう言うのを聞くようです。

父は言います。

「息子よ、これが私の生活の手段なんだ。これしか生きる道はないんだ。」

しかし息子は言います。

「私は相続権がある。それを渡してください。私の権利です……」

あなたの権利とは何でしょうか。

私はその哀れな年老いた父の姿を思い浮かべます。どれほど心を痛めたことでしょうか。

父は言います。

「息子よ、何をするつもりなんだ？」

彼は言います。

「町へ行って、みんなと同じように生きるんだ。」

父は言います。

「母さんと私と一緒にいられないのか？ 私たちは心からお前を愛している。お前にできる限りのことをしてきた。」

しかし、それでは満足しませんでした。サタンがこの若者をつかんでいたのです。

彼は町へ出て、世の人々と同じように生きようとしていました。

それから私は、父が母にこう語る姿を思い浮かべます。

「母さん、どうやらあの子は悪い仲間とつき合ってしまったようだ。もう若者になったから、農場を売って財産を二人の息子に分けてほしいと言っている。どうしても思いとどまらせることができない。」

27 あの年老いた母の姿が目には浮かびます。

神がああ尊い母親たちを祝福してくださいますように。私にも家に一人います。どれほど愛していることでしょうか。昨日、別れを告げたとき、母のあごは震えていました……母には、もうあまり長い時間が残されていません。

祈るのです。

「神よ、どうか私の息子を守ってください。私のもとを離れて行きます。私は……」

32 ここにいる皆さんの中で、あのような昔ながらの母をお持ちの方はどれくらいいますか？手を挙げてみてください。

ああ、なんと愛らしく、優しいことでしょうか。

「私の息子を守ってください。世に出てしまいました。何が起こるか分かりません。ただ、父よ、守ってください。」

祈っているのです。

あなたは母があなたのために祈ってくれたことがありますか？

私の小さな年老いた母が……

私たちに食べ物がないとき、そっと部屋へ下がり、ひざまずいて神に叫び求める姿を、私は何度も見ました。

どうか神が、あのような昔ながらの祈る母を、もっと私たちに与えてくださいますように。

それこそが、この国の背骨です。

その通りです。神に救われた良き母親たちです。

私はこの母が神に叫ぶ姿を見ます。

「神よ、私の息子を守ってください。」

あなたが何をしても、母は赦します。

母の心はいつも赦す準備ができています。帰って来るなら、いつでも。

33 それから、年老いた父の姿が見えます。

心配しながら、納屋から家まで、行ったり来たり、外を歩き回っています。

母が戸口に來て言います。

真理のために立ちなさい。

主の福音のために立ちなさい。

31 さて、これが今日の若者たちのほとんどの態度です。

この若い息子も同じように感じていました。

「母さん、この家族とはもう関わりたくない。聞くことといえば教会のことばかりだ。」

見てください。

私はその年老いた父が「売り物」の看板を立てる姿を思い浮かべます。若い人たちのために、少しドラマのように描いているのですが。

彼は古い農場を売り、財産をまとめ、二人の息子に分け与えます。母と父は、自分たちの取り分が続く限り生きていくのでしょうか。そしてやがてそれも尽きるでしょう。

さて、若い息子が自分の取り分を受け取り、ポケットに金を入れたとき、彼は言います。

「これで楽しくやれるぞ。」

翌朝、私は彼が母に言う姿を思い浮かべます。

「おばさん、荷物をまとめてくれ。明日の朝出て行く。」

ああ……

その哀れな年老いた母は、そっと立ち去り、彼が幼いころに着ていた小さな靴を取り出しては、それを胸に抱きしめるのです。

彼女が小さな靴を手取る姿が見えます。

母親というのは、そういう物を大切に取っておくものです。

私の母も、私が赤ん坊のころ履いていた小さな靴を今も持っています。昔の赤ん坊が着ていた長いドレスも取ってあります。それは母の心にとって宝物なのです。

この物語の母も、小さな靴を取り上げ、オルガンの上に置き、ひざまずいて

私たちは祝いのときに家へ行きますが、その平安をどれほど楽しんでいることか。

私は言いました。「母さん、行かなければなりません。」……

さて、この物語の中の母親を見てください。

彼女は息子のところへ行行って言います。

「息子よ、母さんは板を洗い、アイロンをかけ、あなたのためにできることは何でもしてきたのよ。」

しかし彼は言います。

「母さん、そんな古いことはやめてくれ。そんなものはいらぬ。自分のやりたいようにする。もう大人になるんだから、自分の道を行くんだ。」

母は彼を抱きしめます。

けれど彼は顔を背けます。人前でキスなどされたくない。愛情表現などいらない。

聖書はこうなると言っています。パウロは語りました。「自然の情を失う」と。

まさに今日その通りです。

今や家庭を支配しているのは父や母ではなく、子どもです。話を決めるのは子どもたちです。恥ずべきことです。自然の情を失っているのです。

私は母が息子のほほをなでる姿を思い浮かべます。

若い人たちよ、よく聞きなさい。

いつの日か、それがこの世で唯一欲しくても得られないものになる日が来ます。母はもうそこにはいないのです。

教会へ行き、ときには喜んで声を上げるその古い父親を、あなたは恥ずかしく思うかもしれません。教会のボーイフレンドやガールフレンドが「見てよ、あれ、恥ずかしいわね」と言うかもしれません。そしてあなたは少しだけ父を恥じるかもしれない。

しかし、やがてあなたは父を恥じることなどできない時が来るのです。

28 少し前のことです。ある若い女性が大学から帰って来ました。母親は板で洗濯をしながら、その娘を大学へ通わせていたのです。

駅に車で迎えに来たとき、娘は友人の若い女性と一緒に連れていました。その友人は神からも教会からも離れていました。

列車の中で、その友人は窓の外を見ながら言いました。

外に立っている母親を見て——その母親は働きづめで顔も手も傷だらけでした。

友人は言いました。

「見て、あのしわくちやでみすぼらしい女の人。」

それはその娘の母親でした。

「ひどい顔ね。あんな人と一緒にテーブルに座って食事なんて、嫌にならない？」

それは娘の友人の言葉でした。

本来なら娘がすぐに言い返すべきでした。しかし彼女は顔を背けました。

列車を降りると、そのしわだらけの老いた母親は駆け寄り、娘を抱きしめ、キスしようとしてきました。

しかし娘は嫌悪して身を引き、母から離れました。教会から離れ、神から離れていたように。

彼女は冷たく背を向けました。

母は言いました。

「私のかわいい子、どうしたの？ 何があったの？」

しかし娘は、友人の手前、あまりにも恥ずかしかったのです。

29 そのとき、その事情を知っている車掌の一人が近づいて来て、その若い女性の肩をつかみ、言いました。

「おい、メアリー、どういふつもりだ？」

「大学へ行ってから、自分の母親を恥じるのか？」

そして言いました。

「お前はあの話を知っているはずだ。ある日、家が火事になったんだ。お前の母親は、とても美しい女性だった。お前よりも、これからもお前がなるよりも、ずっと美しかった。」

「そのとき、お前は小さな赤ん坊で、裏庭で母親が洗濯物を干している間、家が突然燃え出した。消防車が駆けつけたが、家は炎に包まれていた。」

「お前は二階で泣いていた。誰も炎の中へ入る勇氣はなかった。」

「その小さな母親は、自分の体を包み、炎の中へ飛び込んだ。お前を抱き上げ、自分の服を引き裂いてお前の顔を包み、全身を覆った。そして自分の顔を炎のほうへ向け、お前をかばいながら、炎の中を歩いて出て来た。」

「だからこそ、今お前はきれいなんだ。そして彼女は傷だらけなんだ。」

「その傷を、お前は恥じるのか？」

30 それが、イエスが私たちのためにしてくださったことです。

私たちが罪人であり、神の前で醜く、捨てられ、退けられていたとき——象牙の宮殿から来られた美しい神の御子が、地上に降りて来られました。そしてご自分に恥を負い、罪を負い、カルバリで叫びながら死なれたのです。

その福音を、私は恥じるべきでしょうか。

街にいるクリスチャンたちは、福音のために立ち上がることを恥じているのではありませんか。

あなたが自由になるために、主は打ち傷を負い、醜くなられました。

あなたが罪から解放されるために、主は罪を負われました。

決して主を否んではなりません。

いつも主を愛しなさい。